

日本教育社会学会 若手研究者交流会 開催のお知らせ

2024年2月19日

日本教育社会学会教育部長 村澤昌崇

日本教育社会学会では、全国各地の大学・大学院において教育社会学研究の研鑽を積んでいる若手研究者を対象に、下記の要領で、若手研究者交流会を開催することに致しました。本研究会は、気軽に若手研究者同士で研究計画や研究成果を検討・相談できる場を提供し、参加者相互の新たなネットワークの構築を図ることを目的としています。多数のご参加をお待ちしております。

- (1) 主催 日本教育社会学会
後援 広島大学高等教育研究開発センター
- (2) 日時 2024年3月10日(日) 12:30~16:00
- (3) 場所 広島オフィスセンター第1会議室
〒732-0805 広島県広島市南区東荒神町 3-35
https://oc.intelligent-hotel.co.jp/t_fronts/access
- (4) 参加対象 大学生、大学院生、若手研究者で教育社会学に関心のある方(非学会員も可)
- (5) 参加費 無料
- (6) 実施形態 対面および Zoom を用いたオンライン
- (7) 申込方法 参加(報告無)をご希望の方は、下記の Google フォームから必要事項を記入してください。<https://forms.gle/TCW8RKwflTiz6iu38>
※参加申込〆切は **3月1日(金)** です。

(8) 報告者のみなさまへ

- 報告される方は全員、報告資料(形式自由)を **3月7日(木)** までに別途メールにて連絡した URL (Dropbox) にアップロードしてください。
- 当日の資料については紙媒体での配布はいたしませんので、各自 PC やタブレット等を持ち込みの上、後日お知らせするクラウドからダウンロードしてください。会場の WiFi は完備されています。
- 報告資料掲載原稿料の手続きについて(希望者のみ): 登壇時に使用した資料は、広島大学高等教育研究開発センター刊行のディスカッションペーパー (<https://x.gd/tsV6y>) への掲載を予定しています(教社若手特集号として刊行。発表当日使用した PPT でもテキストでも可)。原稿料(8,000円程度)を希望する報告者は、**原稿の提出〆切日3月7日(木)を厳守してください。** 諸手続き方法については追ってお知らせいたします。

※ディスカッションペーパーに掲載する原稿について: テキストの場合は最大2,000字程度、PPTの場合はスライド最大10枚程度。当日の発表・報告原稿や資料については、上記の制約はありません。掲載希望者は、掲載された資料をもとに査読誌等への投稿を予定している場合、二重投稿にならないように加筆修正を行う、初出について適切に引用・参考文献として記載する等、研究倫理上の配慮・対応を行ってください。

参加者のみなさまへ

- 当日の資料については紙媒体での配布はいたしません。各自 PC やタブレット等を持ち込みの上、後日お知らせするクラウドからダウンロードしてください。会場の WiFi は完備されています。

プログラム

<当日のタイムスケジュール>

12:30-12:40 教育部挨拶、趣旨説明

12:40-16:00 自己紹介、報告者からの報告（報告 20 分・質疑応答 20 分）

【参加に関する留意点】

- ◆ 会場は一部屋の中に 7 つのラウンドテーブル（対面の報告者）を設置し、各グループで同時に発表を行います（別添の会場見取り図を参照のこと）。ポスターセッションに近い形を想定してください。報告資料については参加者が各自クラウドからダウンロードし、PC やタブレット等で閲覧しながら発表をご覧ください。
- ◆ オンライン参加の zoom リンクは、後日お知らせいたします。
- ◆ オンライン参加の場合は、研究者間の交流を目的としているため、カメラの使用を推奨します。
- ◆ 各ラウンドテーブル内（対面・オンライン）の司会進行は報告者がローテーションで担当します。
- ◆ 交流を目的としていますので、ラウンドテーブル間の移動はできるだけお控えください（ただし強制ではありません）。
- ◆ 席に限りがあるので、立ち見による参加あり。

ラウンドテーブル 1（対面）

三品拓人（関西大学・日本学術振興会特別研究員（PD））「児童養護施設における『不登校』をめぐる葛藤」

眞田英毅（同志社大学文化情報学部・大学教員：助手・助教・専任講師）「学校外教育は多様化したのか」

前田麦穂（國學院大學・大学教員：助手・助教・専任講師）「教員採用制度の国際比較：PISA2022 の探索的分析から」

上地香杜（静岡大学・大学教員：助手・助教・専任講師）「人口減少社会における高校教育の存続と削減に関する基礎的検討」

ラウンドテーブル 2（対面）

杉山美菜子（鎌倉女子大学・学部生）「小学校における児童の社会経済的背景と授業方法の関連—TALIS2018 を用いた定量的分析—」

宇田智佳（大阪大学大学院・博士後期課程）「児童養護施設で暮らす子どもたちの生活世界に関する社会学的研究」

鈴木菖（上智大学大学院・博士後期課程）「福祉事業型専攻科に通う障害者にとっての自立一親を対象としたインタビュー調査を中心に—」

中原慧（京都大学大学院・博士後期課程）「移民的背景のある子どもの学力にかかわる言語的要因の影響」

ラウンドテーブル3 (対面)

豊島伊織 (京都大学大学院・博士前期/修士課程) 「子ども食堂の特質に関する基礎分析：潜在クラス分析から浮上する『教育』」

山田航汰 (関西大学大学院・博士後期課程) 「貧困の世代間連鎖解消に向けた政策の検討」

水野聖良 (大阪大学大学院・博士後期課程) 「居場所に来ることの捉えられ方—スタッフの視点から—」

小西凌 (三重大学大学院・博士後期課程) 「新型コロナウイルス感染拡大における家庭・学校環境は努力有効感にどのように関連するのか」

ラウンドテーブル4 (対面)

野下智則 (京都大学大学院・博士前期/修士課程) 「『性関連情報』の社会学」

金弘実久 (広島大学大学院・博士後期課程) 「資格課程における女子学生の『進路変更』経験—母と娘との特殊な関係性に着目して—」

九鬼成美 (東京大学大学院・博士後期課程) 「大学のキャリア教育科目の中のジェンダーに関する授業内容の様相」

康凱翔 (広島大学大学院・博士後期課程) 「高等教育における Agent Based Model の展開」

ラウンドテーブル5 (対面)

鴨下響 (早稲田大学・学部生) 「企業が求める『主体性』と労働者の成長意識に関する実証分析」

工藤成仁 (名古屋大学大学院・博士前期/修士課程) 「なぜ夢を追う若者は支援されるのか」

水野遼太郎 (京都大学大学院・博士前期/修士課程) 「『地方の若者』の移行と地域移動をめぐる困難—『地元つながり』の空中分解プロセスから—」

鈴鹿翔大 (大阪大学大学院・博士前期/修士課程) 「新卒一括採用システムに乗る日系ブラジル人に関する社会学的研究—教育から労働への移行に着目して—」

ラウンドテーブル6 (対面)

千田沙織 (名古屋大学大学院・博士前期/修士課程) 「教育困難校の生徒指導による自由と管理のジレンマ」

宮崎朔 (中央大学大学院・博士前期/修士課程) 「通学型通信制高校の社会的位置付けに関する一考察」

尾河勇太 (大阪大学大学院・博士前期/修士課程) 「非主流の後期中等教育機関における進路形成の研究—高等専修学校での学校経験に着目して—」

田垣内義浩 (東京大学大学院・博士後期課程) 「進路形成に対する特進コース在籍の影響に関する地域間比較—都道府県の異質性に注目して—」

ラウンドテーブル7 (対面)

秋山みき (大阪大学大学院・博士前期/修士課程) 「公正な教育実践の構築過程はいかなるものか—学校の社会的背景との関連に着目して—」

橋本みのり (広島大学・研究生、金沢大学・事務職員) 「国立大学事務職員に関する修士論文の概要と博士課程研究計画」

程文娟・鈴木浩輔 (共に広島大学大学院・博士後期課程) 「博士課程学生の共同研究に関する研究—動機付けと経験の視点から—」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・＜オンライン＞・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

ラウンドテーブル 8 (オンライン)

赤城拓 (京都大学大学院・博士前期/修士課程) 「援助要請の社会学—『子どもの貧困』に焦点を当てて」
江頭早紀 (津田塾大学大学院・博士前期/修士課程) 「障害があるこどもの学びの現状について」
新井寛規 (佛教大学大学院・博士後期課程) 「不登校の子をもつ親が抱える困りと葛藤」
田野倉和子 (一橋大学大学院・博士後期課程) 「不登校経験者にとっての『自立』の検討—学校卒業後の進路に着目して」

ラウンドテーブル 9 (オンライン)

八木悠太 (早稲田大学大学院・博士前期/修士課程、さいたま市立大砂土東小 (教諭)) 「なぜ保護者トラブルは起きないのか—消費社会における『キープिंग・ストラテジー』」
韓在賢 (京都大学大学院・博士前期/修士課程) 「韓国系ニューカマー第二世代をどう捉えるか」
陳露文 (日本女子大学大学院・博士後期課程) 「在日中国人移民家庭におけるジェンダー秩序の再編過程—『両立母』に焦点を当てて」
桑田湧也 (会社員) 「オルタナティブスクールのジレンマ: 『遅刻』と『ゲーム機の使用』をめぐって」

ラウンドテーブル 10 (オンライン)

古閑大貴 (名古屋大学大学院・博士後期課程) 「合成統制法によるペンシルバニア州パフォーマンス・ファンディングの政策評価」
堀川優弥 (東京大学大学院・博士後期課程、事務職員) 「大学職員はなぜ自発的に行動できていないのか—プロアクティブ行動の観点から—」
秋元みどり (青山学院大学・大学教員: 助手・助教・専任講師) 「地域連携学習を担う実践者の能力形成」

問い合わせ先:

日本教育社会学会教育部

jsec.yseminor.20232024@gmail.com